

# コトバカっ!



コトバカ  
言葉家……言葉を操る専門家。言葉にバカに詳しい人。言葉にバカみたいにこだわる人。

コトのほかバカ。コトによるとバカ。コピーライターの俗称。

上から読んでも相川藍、下から読んでも相川藍。コトバカの相川藍が言葉についてコトバカるっ!

## コトバカ募集!

私はコピーライターの仕事が好きだ。しかし、コピーライターになる時にお世話になった糸井重里家元に「ずっとコピーライターでいく」と表明した約8年前、家元は「老婆心ながら」と前置きした上で「その肩書きにこだわるのはいかなものか」とおっしゃったのだ。

まさに梯子を外された気分だったけど、当時ネット上の「コピー講座の講師をやっていた私は「コピーライターの別称を考えよう」という課題をちゃっかり出してみたのだ。集まった別称の中に「言葉家（ことばか）」があった。端的で可愛いし、言葉のひとつひとつと時間をかけてはか正直に格闘するこの仕事の一面を表していて、気に入った。

スピードや効率やグローバルな視点が求められる時代にふさわしい、ポータルで未来的な別称を選ばなかったのはなぜだろう。コトバカという言葉に出会ってから「地道な部分にこだわりたい」という思いは、ますます強くなってしまったみたい。月刊公募ガイドという雑誌は、この肩書きを面白がってくれた。連載をさせていただいたおかげで、今や飲み会の席などでも「コトバカっ!」と呼ばれてもらえるようになった。からかわれているだけって気もするけど、とりあえず嬉しいわ!

思い返せば、第1回の掲載は2011年3月9日発売号。2日後、大震災が起きた。深刻な状況の中、デーブ・スペクター氏が「大好きな日本」を元気づけようと寒いギャグをツイッターで連発していたことに心を動かされた。一方では言葉が少なくなる人もいて、そのどちらもが、言葉の力を証明していた。毎日何を食べるか、あるいは食べないかで体や心に変化していくように、言葉の取捨選択を日々、意識的におこなうことで私たちは変わり、私たちを取り巻く世界も変わるのだと思う。

ネタにさせてもらったたくさんの人、ありがとう、ごめんなさい。マズリラさんのイラスト、いつも楽しみでした。これまで読んでくださった奇特な方、いっそのこと、コトバカ始めちゃいませんか?

相川藍 (言葉家)

丸の内文学賞 (大賞)、朝日広告賞 (最高賞)、インターネット書評コンテスト (最優秀賞) 受賞。早稲田大学第一文学部卒。コピーライター。